

身近な自然や社会と関われるような取り組みを十分持ち、人間関係が育つような配慮をされている。	○	戸外遊びを多く取り入れ、季節の移ろいを肌で感じ、五感を味わう遊びを通じて、自然事象に関心が持てるような取り組みを行っている。 高齢者施設への慰問や、小中学生との交流、勤労感謝の日間近に各所訪問の実施等地域社会との交流に取り組んでいる。
---	---	--

6. 保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	◎	清掃分担表を作成し、日々清潔な環境づくりをしている。
子どもが落ち着いて過ごせるよう、保育室の雰囲気、おもちゃが工夫されている。	◎	陽光を十分取り入れるよう配慮している。月齢に合わせた玩具を用意するとともに、消毒を丁寧に行っている。

7. 特別な支援を要する子どもへの対応

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	○	一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している。専門機関、保護者との連携を取りながら個々に合った保育を行っている。

8. 要保護児童への対応

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努めている。	○	毎日の視診を丁寧に行い、子どもの様子に異常が見られた場合、子ども虐待ハンドブックに沿った、適切な対応ができています。また、関係機関への通告体制を整えている。

9. 保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
一人ひとりの保護者と日常的な情報交換ができている。	◎	連絡ノート、口頭にて情報交換を行うとともに、園だより等を配布し、園の取り組みや情報を発信している。また、保護者からの育児相談などを通じて、信頼関係の構築に努めている。
子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	○	保護者が子どもの発達を実感し、育児等についての意見交換や共通理解を図るための機会として、誕生会参観運動会、お遊戯会等を設けている。